

未来の学芸員を目指した 博物館実習を開催しました。

本年9月1日～5日、並びに8日～12日にかけての二期にわたり、京都 清宗根付館 および清宗記念館にて博物館実習を行いました。参加校は京都女子大学様、京都外国語大学様、京都ノートルダム女子大学様、京都美術工芸大学様、佛教大学様と多岐に渡り、学芸員を目指す13名の有望な学生が集まりました。

実習の要となったのは、現代根付の第一人者であり、当館顧問として企画展立案にも携わる及川空観様によるご指導で、制作者から見た鑑賞の視点、魅力ある企画立案について貴重なお話を伺う機会を得ました。さらに、当財団を支援いただいている佐川印刷株式会社様で美術館広報物を手がける先鋭のデザイナー様からは媒体制作の要点をご講義いただき、京都支店長様からは来館者への効果的な訴求の在り方について実務的なご指導を賜りました。これに加え、副館長より財団の設立趣旨や学芸研究の基本姿勢に関する講義があり、当学芸員による文化財の取扱い実習も実施しました。博物館実習の総仕上げとして学生による企画展を立案してもらいました。当館において特別展示を設けて、ご来館者様にもご高覧いただく機会を設けました。本実習は文部科学省の趣旨に則り、未来を担う学芸員を育成するためにも、多面的な角度からの学びを提供できるように務めました。参加した学生の多くは初めて根付を知ったとのことでしたが、実習を通して根付に特別な愛着を感じ、興味を持って接していく姿は、私たちにとてもかけがえのない喜びとなりました。実習に参加した学生諸氏のこれからの活躍を期待するばかりです。



作家の視点 『山本 伊多呂』

根付作家になる前は細密木口木版画でアートの現場に携わっていたという伊多呂氏は、作者の内面的世界を根付で表現したいと語ります。今回は新作の「本、出会い」について解説をいただきました。

「人間の一生で巡り会える人の数など高が知れている。人との出会いは物理的に限界があるのだ。しかし、我々は言葉と謂う道具を持っている。それぞれの想いを言語化しそれを文字に変換することで人と直接することなく意思の伝達を可能にした。例えばそれが遠く距離を隔てた異邦人であろうと死んだ過去の偉人であろうと書物と謂う舟に載った言葉の連なりは時空を超え人々の元に届けられた。人は人生を通して様々な人と出会う。生まれた瞬間は父母と出会いそして兄弟姉妹、友人、仲間、配偶者等々その範囲を広げて行く。だがそれだけが出会いでは

ない。人には好奇心という本能を満たしてくれる存在が必要だ。それが本であった。好奇心旺盛な少年時代まだ見ぬ世界を教えてくれた本。そうした本との出会いから得られた知識はまるで宝石のようにキラキラと輝き、ぼくらの好奇心に火をつけてくれた。やがて本は子供達に夢と希望を与え地層のように積み上げられていった。」



山本 伊多呂「本、出会い」黄楊



山本 伊多呂 (やまもと いたる)

1961年千葉県生まれ。緻密な刀さばきと透かしの技術は当代随一と言われます。誰もが覚えのある「場所や時間の記憶」を手掛かりにしながら、時空を歪ませる独特の造形感覚で「私」自身を浮き彫りにします。

2026年 1月～3月の特別企画展のご案内

ウマいく、ウマれる春の予感 『根付の幸せ』展

- 1月「めでたい根付」展 ■ 1月6日(火)～31日(土)
- 2月「笑いを誘う根付」展 ■ 2月1日(日)～28日(土)
- 3月「めでたい瑞獣根付」展 ■ 3月1日(日)～31日(火)

京都 清宗根付館 公式YouTube チャンネルを開設しました。今までの公式Twitter、Instagramでも、最新情報や作品画像を発信していますので、皆様のフォローをお待ちしています。



佐川印刷株式会社は印刷及び情報加工の分野でのリーディングカンパニーとして、日本文化の継承と美術の発展を目指し、京都 清宗根付館を支援しています。



公式サイト



京都 清宗根付館 とは

当館は、佐川印刷株式会社取締役名譽会長 木下宗昭による「日本のよき伝統を、日本人の手によって、日本に保管したい」という発意によって、ここ文化首都・京都に設立された、日本で唯一の根付を専門とする美術館です。当館では、「新たな挑戦」と「絆」をむね(宗)とし、根付と根付をめぐる文化の継承・創造・発展を目指し、＜魅せる＞＜育む＞＜繋がる＞を使命に、地域と皆さまに開かれた美術館として活動しています。



AUTUMN ~ WINTER Issue. 22

〔目次〕

- 企画展の見所
- 根付館便り
- 作家の視点

〔発行元〕

公益財団法人 京都 清宗根付館
〒604-8811 京都市中京区壬生
賀陽御所町46番地(壬生寺東側)
電話 075(802)7000
www.netsukekan.jp/



日本で唯一の現代根付専門美術館 京都 清宗根付館『企画展』のご案内

人をつなぎ、美をつむぐ根付 『惹きこまれる根付の美』展

京都 清宗根付館では、根付の次世代の作家を育成することを目的に、毎年優れた発想と高い技巧を備えた作品にゴールデン根付アワードを授与しています。回を重ねるごとに作家たちは切磋琢磨し、技法を凝らした作品を生み出すようになってきました。現代根付の最前線と言っても過言ではありません。

根付は「粋と洒落の芸術」と形容されるように大衆文化の審美眼から育まれた大らかさと親しみやすさを備えています。生活に潤いを与える笑いや可笑しみをたたえ、悲しみにそつと

寄り添う優しさを宿し、ときには明日への活力を与えてきました。そうした根付が秘める魅力を存分に発揮された作品が今年も集まりました。10月の企画展は、人と人、人と地域、世代をつなぐ日本各地の祭りをテーマにして、ダイナミックな大衆文化の躍動を感じさせる根付を特集します。11月はゴールデン根付アワードのグランプリをはじめとして受賞作品とノミネート作品を一堂に集め、連綿と続く美の系譜を披露いたします。12月は人々の興味を惹きつけ、想像力を掻き立てた「物語」性をもった根付に焦点を当てて紹介いたします。

人をつなぎ、美をつむぐ根付
惹きこまれる根付の美 展
October 1 - December 28

10月「日本の祭り」展 10月1日(水)～31日(金)
11月「秋の名品」展 11月1日(土)～30日(日)
12月「ものごたりの根付」展 12月2日(火)～28日(日)

公益財団法人 京都 清宗根付館
Public Interest Incorporated Foundation
KYOTO SEISHU NETSUKE ART MUSEUM
〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町46番地1(壬生寺東側)
TEL / 075(802)7000

SAGAWA PRINTING 佐川印刷株式会社は印刷及び情報加工の分野でのリーディングカンパニーとして、日本文化の継承と美術の発展を目指し、京都 清宗根付館を支援しています。

告知ポスター

10月 ■ 10月1日(水)～31日(金)

「日本の祭り」展

日本では各地の風土や風習に根差した祭りが今でも残っています。地域に住む人たちの連帯を深め、独自の文化を育んできました。そもそも祭りは神に捧げる神事として始まったとされ、日本人の精神的な淵源と深く関係しています。次第に娯楽性や競争性を加えながら庶民にも浸透していきました。現在でも祭りは地域の特色を表す文化の顔として観光の誘客を図る側面も持っています。そうした日本各地の特色のある様々な祭りや風習を紹介いたします。

11月 ■ 11月1日(土)～30日(日)

「秋の名品」展

年に一度行われる当館最大のイベント、ゴールデン根付アワード。この表彰は根付文化の継承を目的として、現代作家による自由で新たな挑戦を奨励するため、2014年から毎年授賞式を開催しております。現代作家の新作の中から評議員によって審査されグランプリを決定します。作家たちはグランプリを目指し、創意工夫を凝らし、新機軸を打ち出そうと意欲的に創作に取り組んでいます。時代を継承し、未来を見すえた挑戦を続ける作家たちの作品を紹介します。

※当館で展示された新作根付の中から総合的に優れた技術や発想を持つ作品に与えられる賞。

12月 ■ 12月2日(火)～28日(日)

「ものがたりの根付」展

物語形式は、時間の経過や因果関係を説明することに優れ、登場人物への共感や信頼感を深め、感情を動かす効果を持っています。感情を揺さぶる物語に触れると心が癒され、人生が豊かにさせることも知られています。物語のそうした効果は根付にも活かされていて、心に残る物語の一場面を再現したり、物語を翻案して新しい設定を加えたり、登場人物の時代などを変えて見立てたりしています。また作者が根付を通して物語を紡ぎ出す場合もあります。そうした物語と根付の関係を紐解きます。



小野里 三味 (1967～)
「後の祭」 高5.0cm 象牙
もう手遅れという意味で使われる後の祭りですが、作品では山車(だし)の曳き手は骸骨たちです。生前の活気ある祭りを思い浮かべても後の祭り。



桑原 仁 (1956～)
「十五夜」 高4.2cm 象牙
最も美しいとされる中秋の名月を鑑賞する風習は平安時代に伝来したとされ、のちに秋の収穫とともに祝うようになりました。2025年は10月6日です。



河瀬 欽水 (1926～)
「なまはげ赤鬼」 高4.0cm 黄楊
秋田県の伝統行事として知られる「なまはげ」。赤鬼はお爺さん鬼、青鬼はお婆さん鬼とされます。大晦日に「悪い子はいねがー」と家々を回ります。



木元 喜安 (1969～)
「ハロウィン」 高3.5cm 漆塊・金粉・銀粉
ハロウィン(万聖節前夜)でカボチャに火を灯すのは魔除けと魂の道しるべとするためです。中には子供たちにあげるお菓子が入っています。



工藤 道齋 (1950～)
「秋田竿灯まつり」 高8.5cm 鹿角
厄よけ、五穀豊穡などを願う祭りで東北三大祭りのひとつです。長い竿に提灯を吊り下げた竿灯は稲穂に見立てられ、夏の夜空を彩ります。



THE GOLDEN NETSUKE AWARDS グランプリ

山本 伊多呂 (1961～)
「遠野物語における『結び』の形」 高6.9cm 黄楊
遠野物語には悲恋の馬娘婚姻譚が収められています。飼い馬と夫婦になった娘の父親は怒って馬の首をはねましたが、娘は馬の首に乗り天に登ったとされます。



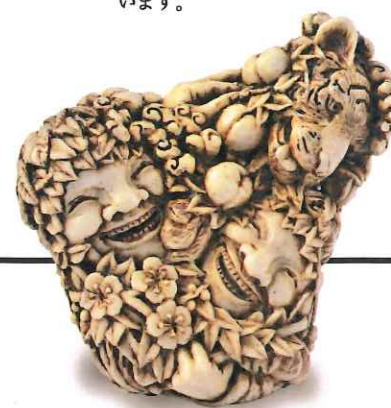
THE GOLDEN NETSUKE AWARDS グランプリ

栗田 元正 (1976～)
「辰巳」 高6.3cm 象牙
江戸の深川で活躍した芸者らは、江戸の辰巳(東南)にあたることから辰巳芸者と呼ばれ、「意気」と「張り」を看板に勇み肌で評判を呼びました。



優秀賞

向田 陽佳 (1968～)
「卯おとこに辰おんな」 高6.1cm 象牙
うだつが上がるとは富や成功の証しとされます。そのうだつをはさんで男性の着物は兎文様に、女性の着物に龍を象徴するうろこ文様になっています。



優秀賞

百々(もも) (1984～)
「三聖」 高5.5cm 鹿角
寒山拾得(かんざんじつとく)は脱俗の境地や悟りを象徴する存在とされます。人、動物、植物もすべて同じ自然であることを表現しました。



理事長賞

及川 空観 (1968～)
「心むすび」 高3.8cm 象牙
「梅川忠兵衛」より道行の場面を作品に。寒さ厳しいなか、二人が身を寄せ、手を取り合って温め合う姿に、二人の心の結びつきを表しています。



河原 明秀 (1934～)
「ぶんぶく茶釜」 高3.1cm 象牙
群馬県館林市にある茂林寺に伝わる「分福茶釜」はためきが化けた茶釜として福を分け与え、開運出世、寿命長久などの功德があるとされます。



高木 喜峰 (1957～)
「狼と子山羊」 高2.4cm 鹿角
グリム童話「狼と七匹の子山羊」より。悪い狼に食べられた子山羊を助けるために母山羊が狼の腹を切って石にすり替えるという物語です。



岸 一舟 (1917～)
「草子洗小町」 高5.0cm 象牙
宮中の歌合せを舞台に小野小町が、大伴黒主の奸計を機知によって退けるといった演目です。能衣装を緻密に彫り上げ、小町の気品を伝えています。



和地 一風 (1970～)
「三太九郎(飛脚)」 高6.4cm 象牙
もし江戸時代にクリスマス商戦があったとしたら、そのプレゼントを持ってサンタクロースが飛脚として走ったかもしれないという発想から作品にしています。



栗田 元正 (1949～)
「一寸」 高3.8cm 象牙・漆
一寸法師のように「小さい子」は日本神話のスクナヒコナ(スク=少・ナ=大地・ヒコ=男神・ナ=接尾辞)が源流と考えられ、知略によって運命を拓いていきます。